

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

べとれへむの風

発行：べとれへむの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
 住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.net>



No.133

「天高く 馬肥ゆる秋」 2025年11月

院長 青木 信彦

10月下旬のある日のことです。昼休み、久しぶりに病院の庭園に出してみました。今年は6月からの猛暑で、とても庭園でのんびりとする気持ちになれなかったのです。

コールマンの持ち運びイスに座って上空をみると澄み渡って晴れ、ああこれが「天高く馬肥ゆる秋」、馬の食欲が増し、肥えてたくましくなる秋と実感しました。

庭園内を少し散歩してみました。すると2年前(2023年9月)のべとれへむ開設90周年記念に植樹した柿の木の前の方に何か着いているのに気づいたのです。よくよく観察すると(信じられなかったのですが)なんと苗木のてっぺんに柿の実が1個だけ鎮座しているのです。この1個の柿の実は気高く、あたかも天に向かって何か叫んでいるように見えました。(生まれてきた、このわたしをみてくれ!とか)

桃栗3年・柿8年ですので、植樹したばかりの小さな柿の木に実がつくのは、あと5年くらいかかるのかなと思っていました。ところがまだ2年です。この予想外の発見で突如、元気が湧いてきました。

「天高く馬肥ゆる秋」に初めての柿の実です。すぐに写真に収めました。この庭園にはいつも我がもの顔の野鳥が多数やってきて騒がしくしています。この貴重な柿が食べられてしまうかもしれません。中でも集団でくるオナガドリの餌食になってしまう公算は大きいと心配になりました。

そうです、そうなる前にみなさんもこの「べとれへむの奇跡(柿)」をご覧ください ⇒きっと、突然、元気が出ますよ!

ここ数年は年に数日しかない心地よい秋の日に、日射しを浴びながら庭園の柿の実をみて、あらためて出て来た言葉は ~健康で仕事のできることに感謝~です。



第29回 日本看護管理学会学術集会参加報告

8月22,23日に、札幌で行なわれた日本看護管理学会学術集会へ参加。「暮らしの中の協奏」をメインテーマに協奏する看護組織の鍵が何かを学び、小さな願いに寄り添うことの大切さを共有する場となり勉強になりました。学びの機会、ありがとうございました。

看護師長 丸山 明美



第56回(2025年度) 日本看護学会学術集会参加報告

日々の病棟業務と身近な演題が多く、とても勉強になりました。

特に身体拘束、ACPに関するテーマが多く、今後の業務に活かしたいと思います。

看護師 谷藤 涼子

エネルギッシュな多くの発表により、看護研究の多様性を改めて実感。それぞれの現場での課題や実践に関する生の声を聞くことができ、とても貴重な機会だった。終末期医療の変化とACPの在り方については多くの気づきを得る事が出来た。

看護師 門叶 真智子



第27回 日本褥瘡学会学術集会参加報告

リハビリの視点でのポジショニングや介助方法、動作指導など他施設での取り組みに驚きや再発見があり刺激的でした。看護の視点での瘡部の処置方法やドレッシング剤の重要性なども知ることができ実りある二日間でした。

理学療法士 宮田 あゆみ

様々な分野からの褥瘡へのアプローチを知る事が出来たり、リハビリ分野でのポジショニングやマットレスの検討の重要性を再認識しました。今後も褥瘡のある患者さんに対して他職種からの意見を交えて多角的に考えていきたいと思いました。

作業療法士 石原 美佳

リハビリスタッフは褥瘡予防＝ポジショニングになりがちですが、看護や薬剤などの他分野の視点での褥瘡へのアプローチを知ることができ、有意義な時間でした。

作業療法士 横山 涼子

第27回日本褥瘡学会へいってきました。

治療に向けて、除圧、肌の清潔保持、排便コントロール、栄養管理、等々他職種の連携が必要なことや、浸出液には壊死した細胞を流し浄化する作用があること等、いろいろと褥瘡の基礎知識が勉強になりました。

介護福祉士 金戸 正成

褥瘡や皮膚トラブルは看護の腕の見せ所！

皮膚の観察と評価の全体的なレベルアップについて、他院の教育や取り組みを知り、当院では…と考え中です。頑張りま〜す！

看護師 秋野 京子





リハビリ科主催

夏祭り開催報告



理学療法士 井上 翼

9月17, 19日の2日間で今年もリハビリ科の夏祭りを入院患者さん対象に開催しました。定番の魚釣りやボウリングなどの縁日、盆踊りや大正琴の演奏を行いました。

盆踊りでは、1階病棟看護師の荻野さんに太鼓をたたいてもらいながら、「東京音頭」「炭坑節」を踊りました。力強い太鼓の音で普段の盆踊りより厚みのあるものになった様に感じます。また、今年は新しい取り

組みとして「(自称) 最近清瀬市で有名なマジシャン」によるマジックの催し物を取り入れました。簡単なマジックではありますが、患者さんの新鮮なリアクションが見られました。来年も同じマジシャンが来てくれるかは分かりませんが、普段とは変わったものが提供できればと考えています。

これからも季節毎に、楽しんでもらえるような企画を行っていきたいと思います。



ひふの話

その
85

市川 雅子(皮膚科医師)

外歯癭 (がいしろう)

今回は「外歯癭」という病気についてです。聞きなれない病名ですし、医者でも見たことが無い人が多いと思います。皮膚科には「顔におできができた」といって受診されます。見た目は「おでき」「ひどいニキビ」です。そして治療しても「治らない」。できる場所は頬やあごで、名前の通り「歯」と関連します。これは、歯周病や虫歯が進行して歯の根元に膿がたまり、それが皮膚側に排膿して瘻孔(ろうこう)を作った状態です。表(皮膚)から見るよりもずっと深いところまで炎症が広がっています。皮膚から排膿する前に原因となっている歯が痛むことが多いようですが、気がつかない人もいます。抗生物質(化膿止め)を飲んだり塗ったりしてもなかなか治りません。自然治癒もありません。この病気は原因となっている歯の治療が必要です。外歯癭を疑った場合は歯科または口腔外科に紹介します。放置すればあごの骨への感染が



更に広がり、ほかの歯にも影響が出ることもあります。外歯癭は健康な人でもおこりますが、糖尿病などの基礎疾患を持っていたり抗癌剤や免疫を抑える薬を服用

している人、タバコを吸う人、また、歯のかぶせもの、差し歯やブリッジ、義歯(入れ歯)、そしてインプラントを入れている人などは、特に注意が必要です。毎日の歯磨きや歯科での定期的なお手入れができなくなると悪化しやすいからです。歯磨きは、歯ブラシで磨けばいいというものではなく、その人の口の中の状態に合わせて、通常の歯ブラシに加えて、フロス(糸)や歯間ブラシ、タフトブラシなども使いながら、どのようにきれいにしていくのか、歯科で教えて頂いて毎日行うことが重要です。「歯は万病のもと」という言葉があります。外歯癭だけでなく、虫歯や歯周病などの口の中のトラブルを放置することで、糖尿病が悪化したり、動脈硬化が進む、心筋梗塞や脳梗塞になりやすいなどの全身的なトラブルをひきおこすことがわかっています。今一度、ご自分のお口のケアについて考えてみませんか?

お知らせ

参加
無料

12月の健康公開講座 健康長寿シリーズ⑦

ピラティスで「骨活」
人生100年時代を
骨太で行こう!!



日時：令和7年12月4日(木) 14時～
会場：ベトレヘムの園病院 2F会議室
講師：窪田 看護部長
河野 総務主任(ピラティスインストラクター)

●持ち物

※動きやすい服装・ タオル・ 水分



ベト café



開催のお知らせ

日時：
令和7年11月19日(水)・12月17日(水)
令和8年1月21日(水)・2月18日(水)
毎月第3水曜日 午後14時～午後16時
会場：ベトレヘムの園病院 2F会議室

美味しい飲み物
お菓子(クッキー)



参加費 ¥100

(クッキー+飲み物)

- ・コーヒー
- ・エスプレッソ
- ・カフェオレ
- ・紅茶
- ・レモンティ
- ・ミルクティ
- ・ふわラテ
- ・緑茶
- ・昆布茶
- ・梅昆布茶

編集後記

秋から冬へと季節が移り、朝晩は冷たい空気を感じるようになりました。

寒さで体がこわばりやすい時期こそ、少し身体を動かして血行を良くしていきたいですね。

たとえば、椅子に座ったまま両肩をゆっくり回したり、立ち上がって背筋を伸ばしたり、深呼吸をして胸を広げるだけでも、体がほかほかして気分がすっきりします。

ちょっとした時間に取り入れて、無理なく続けてみましょう。

院内でもできる小さな健康習慣を重ねながら、心も体も温かく過ごせますように。(H・K)

